

# 大きく変わる 県立高校入試制度

## 名和中学校

2年生の高校訪問では、進学を希望する高校を見学します  
(写真は米子東高校)



今年度の県立高校入試は大きく変わります。

これまでは、国語・社会・数学・理科・英語のテスト(250点満点)の得点と、内申書の9教科の10段階相対評価(260点満点)の合計で合否が決まっていた。

今年度の県立高校入試の第1の変更点は、内申書に記載される各教科の評定が5段階絶対評価に変わったことです。第2は、高校によって内申点が異なることです。130点から260点の幅がありま

す。テストをおこなう5教科(素点を合計して25点満点)と実技教科(素点を合計して2倍するので40点満点)の合計65点を基にして、米子東高校と米子西高校は合計点を2倍して130点を満点にしています。また、4倍して260点満点なのが、日野高校と米子工業高校です。残りの高校は、3倍して195点満点です。テストはこれまでと同じく5教科でおこなわれ、250点満点のままになっています。このテスト点と内申点を合計して合否を判定することになります。つまり、内申点の比率が下がり、テストの比率が高くなったと言えます。

本校の進路指導の基本は二つです。一つは、生徒の能力・適性や興味・関心、将来の生き方について考えさせていくための取り組みです。

1年生の時には身近な職業調べ学習をおこない、2年生では夏休みに職場体験、高校訪問などをおこないます。3年生では高校説明会や体験入学を通して具体的な進路決定をしていきま

二つ目は、基礎学力の向上です。生徒が進路を選択していく上でその基礎となる学力の向上が不可欠です。そのため、数学・英語で少人数指導をおこなったり、選択教科で基礎学力や発展的な力をつけたり、家庭学習の定着を目指してPTAとともに取り組んだりしています。

大きく変わった県立高校入試制度。名和中学校の生徒一人ひとりの確かな進路を保障していきたいと思えます。



「職場体験学習」をおこなって、将来の生き方を考えます  
(写真は光徳保育所)

# 名和町最後の始業式

## 光徳小学校



「名和町最後」の意味を子どもたちに語る井上校長先生

零度に近い気温の体育館は、心も体も引きしまります。校長先生の新学期のお話を聴く110人の児童の顔は真剣です。1月11日の第3学期始業式のことでした。

新しい年の初めにふさわしい井上校長先生のお話は、次のような内容でした。

350年ほど前、徳川家のお抱え学者だった、林羅山をめぐる少年の話です。

羅山は、家康から4代将軍ま

での将軍たちに学問を教える先生でしたが、その羅山のもとで学問をしたいと心を決めた少年がいました。少年は、大晦日に羅山の門をたたき、弟子に加えてくださいと頼んだのです。「先生！どうか私に来年からぜひ学問を教えてください」と熱心に頼むその少年に、羅山は「お前の学問をしたい気持ちはよく分かった。それほど学問をしたいのに、なぜ来年から始めるのか？学問に区切りはない。早速、今日、今から始めよう」と言っ、大晦日から講義を始めたといっています。

難しい言葉ですが、これを即除日(即ち除日に講義を起す)といっています。

3学期は、とても短い学期です。健康には十分気を付けて、しっかりとがんばりましょう。

そして今日は、もう一つ話しておかなければならないことがあります。それは、「名和町立光徳小学校」という名前がなくなってしまうことです。今日の始業式が、最後の始業式だということです。

名和町は、3月の合併で新たに「大山町」に変わります。そ

ういう意味で、今日の始業式は、とても大切な式なのです。

とあいさつされました。

家庭で3町の合併について聞いている児童が多いので、しょう。本当に真剣なまなざしで聞いていました。

光徳小学校は、創立115年です。名和町立としての歴史は、町制50周年と同じく50年。

3月28日で名和町立光徳小学校から大山町立光徳小学校となります。

50回目の卒業式を終えた後、終業式をもってその名は変わることに変わります。



子どもたちは、真剣な表情で校長先生の話に聞き入っていました